

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者対策総合研究事業）
分担研究報告書

ICF および ISO9999 の動向把握

研究代表者 井上 剛伸 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部長
研究分担者 向野 雅彦 北海道大学病院
リハビリテーション科 教授
研究協力者 中山 剛 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
自立支援ロボット技術等研究室長
研究協力者 及川恵美子 一般社団法人 日本 ICF 協会
代表理事

研究要旨

本研究では、リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発において用いられる国際分類（ICF および ISO9999）の最新の動向および、その他の国際動向を把握することを目的とする。

現在、WHO はこれまでの改訂をまとめ、ICF2023 として発行を計画している。さらに ICF の利用を促進するべく、分類の検索のための関連語句の追加とともに、ICF の症例シナリオの収集や、ICD-11 V 章に採用された WHODAS の子供版の開発など、現在の取り組みの方向性について情報収集を行うことができた。

支援機器の分類と用語 ISO9999 の改訂状況について情報収集を行った。2022 年 5 月に最新版が発行された。今回の改訂では、教育・訓練用具の大分類が削除されている他、情報・コミュニケーション機器についても大きな変更がなされている。また、支援機器の定義も改訂された。

以上の ICF 及び ISO9999 の最新動向については、支援機器選定・導入ガイドのコラムにまとめて記載することとした。

A. 研究目的

支援機器の選定・導入運用では、リハビリテーション関連職等（以下、リハ専門職）が使用できる標準的なガイドライン等はなく、個人の知識や技術レベルに委ねられているのが現状である。支援機器の選定には、使用環境や障害の状況およびその変化への対応が必要となることから、多様な要件が必要となる。近年、種々の支援機器が開発・普及しており、統一的な概念に基づいた支援機器の情報と、それらを活用して適切な選定・導入運用を行うための標準的なガイドラインの作成が急務である。

井上らは支援機器の選択・導入運用に着目し、それらを活用するためのガイドラインの作成に向け、国際的な共通言語である ICF（国際生活機能分類）

と ISO9999（福祉用具の分類と用語の国際規格）を用いて、支援機器のデータと利用者の特徴、利用場面を結びつける支援機器 ICF 対応表を作成するとともに、関連する情報を収集してきた（厚生労働行政推進調査事業費 19GC2002 R1～R2）。R3 年度からは、R2 年度までに作成した支援機器 ICF 対応表を活用し、リハ専門職が、適切な支援機器の選定・導入運用を実施するために役立つガイドラインの開発を目指している。

それにあたり、国際的な分類に基づいた整理を行っていくことは一貫性、汎用性を保つ観点から重要である。そのため、本分担研究では継続的に更新されている機器や機能の分類と国際生活機能分類（ICF）および ISO9999 の動向の把握を目的とした。

B. 研究方法

1. ICF の動向把握

ICFについては、WHO 国際統計分類ネットワークの年次会議およびオンラインでのICF改訂諮問委員会の会議に出席し、最新の動向について情報収集を行った。

2. ISO9999 の動向把握

ISO9999は国際標準化機構（ISO）の福祉用具専門委員会（TC173）の第2分科委員会（SC2）において改訂の議論が進められている。研究代表者および研究協力者が、関連する会議等に出席し、動向の把握を行った。

C. 研究結果

1. ICF の動向把握

WHO 国際統計分類ネットワークの会議に出席し、最新の動向について情報収集を行った。現在、WHOはこれまでの改訂をまとめ、ICF2023（仮称）として発行を計画している。現在 WHO 国際統計分類ネットワークおよび WHO における作業は以下のようなものである。

(1) ICF2023(仮称)の公表

ICFは、2001年の公表以降、毎年アップデートが実施され、多数の変更がなされてきた。2023年中にこれまでのアップデート内容をまとめ、ICF2023(仮称)として公表の予定となっている。

(2) 新しいプラットフォームへの融合

ICFはICD, ICHIとともに、新しい国際分類プラットフォーム上に載せられることになっている。新しいプラットフォーム上では、ICDと同様、ICFはLinearization（コードの付いた分類項目）とFoundation（コードがついていない分類項目）の二つからなる分類構造となることが想定されている（資料1）。Foundationの項目（"Under the shoreline"項目とも呼ぶ）は、その統計における重要性によって必要に応じてコードを付与されることになっている。新しい分類プラットフォーム上では、分類のアップデートや翻訳も同じ仕組みの中で実施できるようになっている。この統合は、2023年中に実施される予定である。

(3) 同義語集の作成

新しいICFの枠組みの中では、検索性を増すために同義語を多数登録できる構造となっている。この同義語の収集プロセスについては、WHO 国際統計分類ネットワークのFDRG（Functioning and Disability Reference Group）において、現在手法の検討が進められている。

(4) 症例シナリオの収集

ICFのダイジェスト版とも言える、ICD-11のV章（生活機能評価に関する補助セクション）のWHOアカデミーでの教育用カリキュラム作成のため、教育用の症例シナリオの作成が進められている。

2. ISO9999 の動向把握

支援機器の分類と用語ISO9999の改訂状況について情報収集を行った。2022年5月に最新版が発行された。今回の改訂では、教育・訓練用具の大分類が削除されている他、情報・コミュニケーション機器についても大きな変更がなされている。また、支援機器の定義も改訂された。これまでの定義と実質的には変わっていないが、WHOのRehabilitation2030の文献で示されたリハビリテーションの定義の記述に準じた改定が行われた。新しい支援機器の定義を以下に示す。

assistive product

product that optimizes a person's functioning and reduces disability

Note 1 to entry: See Annex B.

Note 2 to entry: Assistive products include devices, instruments, equipment, and software.

Note 3 to entry: Assistive products can be especially produced or generally available items.

2023年3月25日に事前検討作業（予備業務項目）の開始が認められ、現在、次期改訂に向けた議論が開始された。

D. 考察

1. ICF の動向把握

WHO および WHO 国際統計分類ネットワークでは、これまでの成果を踏まえ、アップデートと新しいプラットフォームへの対応を進めている。特に新しい国際分類プラットフォームへの融合は、ICD や ICHI との連携を強化し、分類システム全体の一貫性を高めることにつながると考えられる。また、同義語の収集により検索性を高めたり、症例シナリオを作成するなど、臨床での活用を促進するための取り組みにも積極的に取り組んでおり、今後一層の利便性向上に貢献することが期待される。

また、ICF の最新動向については、支援機器選定・導入ガイドのコラムにまとめて記載することとした。

2. ISO9999 の動向把握

2022 年 5 月に発行された ISO9999 は、大分類の構成や支援機器の定義など、大きな改訂がなされている。この動向は、世界的に影響を及ぼすものと考えられる。特に支援機器の定義の改訂は、障害の分野に少なからず影響を及ぼすであろう。また、次期改訂の議論も始まっており、今後の議論についても動向の把握が必要である。

また、ISO9999 の最新動向については、支援機器選定・導入ガイドのコラムにまとめて記載することとした。

E. 結論

本研究では、リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発において用いられる国際分類 (ICF および ISO9999) の最新の動向について、状況を報告した。いずれも、支援機器の適切な利用に向けて重要な情報であり、ガイドラインへコラムとして記載した。

F. 参考文献

- 1) ISO9999:2022 Assistive products – Classification and terminology, International Organization of Standardization, 2022.

G. 研究発表

1. 論文発表

Leonardi M, Lee H, Kostanjsek N, Fornari A, Raggi A, Martinuzzi A, Yáñez M, Almborg AH, Fresk M, Besstrashnova Y, Shoshmin A, Castro SS, Cordeiro ES, Cuenot M, Haas C, Maart S, Maribo T, Miller J, Mukaino M, Snyman S, Trinks U, Anttila H, Paltamaa J, Saleeby P, Frattura L, Madden R, Sykes C, Gool CHV, Hrkal J, Zvolský M, Sládková P, Vikdal M, Harðardóttir GA, Foubert J, Jakob R, Coenen M, Kraus de Camargo O. 20 Years of ICF-International Classification of Functioning, Disability and Health: Uses and Applications around the World. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Sep 8;19(18):11321.

井上剛伸, 柴田八衣子, 柴田晃希, 石渡利奈, 阿久根徹, 藤原清香, 酒井勇雅, 大庭潤平, 国際生活機能分類 (ICF) に基づく義肢装具の捉え方-ICF の概要と臨床実践, 日本義肢装具学会誌, 38, 2, 2022, 132-137.

井上剛伸, ICF を活用した支援機器のマッピング, リハビリテーション医学, 59, 8, 2022, 797-804.

井上剛伸, 支援機器の分類と用語に関する ISO 規格の動向-ICF との関連も含めて, 総合リハビリテーション, 50, 4, 2022, 419-423.

2. 学会発表

Mukaino M, Oikawa E, Yamada S. Survey with ICD-11 Chapter V on Functioning Required for Daily Living. WHO-FIC Network Annual Meeting 2022, 18th-22nd October, Geneva.

井上剛伸, 桂律也, 森田千晶, 二瓶美里, 山内閑子, 中村美緒, Esther Dankin-Poole, Natasha Lyton, 支援機器の利用効果に関する 6 つの重要課題-GAATO AT 利用効果グランドチャレンジ 2022 の結果より, 第 36 回リハ工学カンファレンス,

2022-8-13/14, Online.

Suzurikawa J, Ishiwata R, Inoue T, How are the assistive products listed in WHO-APL described with ICF codes? – a Delphi survey with allied health professionals, WHO-FIC Network Annual Meeting 2022, 18th-22nd October, Geneva.

井上剛伸, 支援機器の選定・導入運用ガイドラインの開発, ニーズ・シーズマッチング交流会, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Linearization と Foundation

